

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 5 部門第 2 区分

【発行日】平成30年3月29日(2018.3.29)

【公開番号】特開2016-164424(P2016-164424A)

【公開日】平成28年9月8日(2016.9.8)

【年通号数】公開・登録公報2016-054

【出願番号】特願2015-44517(P2015-44517)

【国際特許分類】

F 1 6 C 29/06 (2006.01)

【F I】

F 1 6 C 29/06

【手続補正書】

【提出日】平成30年2月16日(2018.2.16)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 1】

また、保持板 7 は、図 9 ～ 図 12 に示すように、実質的に断面直角二等辺三角形の形状に形成され、直角二等辺三角形の頂点の V 字形の凸部 35 がケーシング 3 の袖部 33 の内側側面 34 に形成された V 字形の凹溝 31 に係合し、二辺のガイド面 22 でローラ 5 の端面 21 をガイドするように配設されている。保持板 7 には、その底面 53 に長手方向に延びる凹溝 40 が形成されており、凹溝 40 には実施例では二箇所に貫通孔 45 が形成されている。保持板 7 をケーシング 3 に固定する時に、固定具となる固定板 26 を凹溝 40 に配置し、ボルトを貫通孔 45 に通したケーシング 3 に螺入して固定することができる。保持板 7 には、ガイド面 22 の端部に鉤部 46 が形成されており、該鉤部 46 が機能して、潤滑板 10 が配設された保持板 7 がケーシング 3 に固定された状態では、スライダ 2 を軌道レール 1 から取り外して時に、ローラ 5 が脱落しないようにローラ 5 の端面 21 を支えてローラ 5 を保持する。